

海を越え、一つになった絵と心 ～「ウブド&春日」アートマイルプロジェクト～

熊本市立春日小学校 西尾 環 6年生
図画工作科・総合的な学習の時間

海外の子ども達と共同で大きなキャンバスに絵を描きたい！そのような意識を持たせることからプロジェクトはスタートした。アートマイル経験者とのスカイプ対話等により、子どもたちは主体的に海外交流に取り組んでいく。春日小学校でキャンバスの右半分を描いてインドネシアに送り、ウブド第一小学校で左半分を描いた。それぞれ自分たちの地域の祭りや自然、歴史ある建物などを描き、二つの絵が見事につながりのあるものになっている。共同壁画は両国で展示され、多くの人々の目に触れた。そして最後に、ビデオ会議で、作者同士が心の交流を図った。



1 はじめに

交流期間 2007年9月～2008年3月、
相手校 ウブド第一小学校(インドネシア)
自校の人数及び相手校の人数
春日小6年生38名
ウブド第一小6年生約10名

2 ねらい

絵画の表現力(創造力・描画力)や鑑賞力、
共同で活動する力、
情報活用力(収集や発信)、
異文化理解や自文化理解

3 方法

- ・問題解決学習的手法のプロジェクト学習
(子どもが「海外交流アートマイルをしたい」という課題を実現していく単元づくり)
- ・図画工作の共同制作題材としての授業
(全員の思いを実行委員が集約して下絵作成、全員で色塗り。鑑賞活動も実施。)
- ・6年生の卒業制作の一環
(担任と保護者の理解により卒業制作として全員で作品を創り上げ、卒業式に展示。)
- ・ICTの効果的な活用
(DVDによる鑑賞、インターネット調べ学習、プロジェクト活用の下絵制作、スカイプのビデオ会議による交流)
- ・英語活動との関連
(担任とALTの協力により、英語活動による自己紹介ビデオの作成。)

4 実践の内容

(1) 海外交流アートマイルへの挑戦

5月、赤穂の中学生とシリアとの交流の様子や制作された共同壁画を、ビデオクリップやDVDで鑑賞。その時、春日小6年生は「インターネットでも交流できるなんてびっくりした。大きな絵がすごかった。」
「違う国に住んでいても、いろいろなもので自分の国のよさを伝えていることがとてもすばらしかった。」と感想を持った。

6月に、「アートマイル」についてインターネットで検索して調べる中で、日本の小学校の中にも海外交流アートマイルをやっている学校がいることを知り、「面白そうだな。やってみたい。」という興味・関心が高まってきた。

さらに7月、金沢の清水先生(前年度、海外交流をした小学校に関わった先生)とのビデオ会議で子ども達のモチベーション



は一気に高まった。「私たちもぜひ、海外の国と一緒に壁画をえがきたい！」
そして、代表

の子が、JAM代表の塩飽さんに交流参加と交流先紹介のお願いの手紙を書いたのである。

(2) インドネシアとの交流に向かって

9月になり、JAMの塩飽さんから春日小6年生宛に返事のメールが、真っ白なキャンバスと一緒に届いた。

「参加ありがとう。あなたたちにはインドネシアのウブド第一小学校を紹介しましょう。交流を楽しんでください。」

受け取った子ども達の感想はこうだ。

「塩飽さんから手紙が来たとき、びっくりしました。アートマイルができるんだ!と思い、すごくうれしかったです。海外交流をするとよその国のことが分かるだけでなく自分国のことが分かるようになると思うのが少し驚きです。そして自分の国のことが分かるというのを読んで、私はアートマイルをますますしたくなりました。」

その後、JAMの紹介によりウブドで生活する光森さんから現地の様子を紹介する写真やビデオが届いた。それを見た子どもたちは「自然がすばらしい。」「これが学校?」「食べ物がおいしそう」と言いながら、バリ島ウブドの様子を楽しく見ていた。

10月になり、絵を描く前に、ウブドに送るためのクラス写真を撮ったり、自己紹介ビデオを作成したりすることにしました。特にビデオは全員が英語で自分の名前と好きなものを紹介した。ALTや担任の協力により、総合の時間を2時間使い、楽しい自己紹介ビデオができあがった。



(3) アートマイル共同壁画日本側の制作

11月、アートマイル実行委員を立ちあげた。キャンバスの右半分には描きたいものを各グループで話し合い絞った。それを実行委員がさらに練り上げ、描いて相手に伝えるものを「熊本の祭りや自然、シンボリックなお城」とした。写真を見たりスケッチしたりしたものを生かし、実行委員による下絵が完成した。

12月になり、いよいよ色塗りである。担任の協力で図工の時間をまとめ取りし、一気に塗り上げる。それでも時間が不足し

たが、休み時間にも交代で図工室に訪れ、2学期終業式の日、ついに春日小側の絵が完成した。

「やったー! ついに完成した!」



(4) ウブドへの旅立ち

1月の始業式の日、乾いた絵の裏に全員がマジックでサインを入れた。1年生が、絵を見に来たので披露する。

「おお〜すごい〜。色もきれいだ。」

目を丸くした下級生の表情に6年生もうれしそうだった。

新聞社からの取材もあった。その時、記事に掲載された二人のコメント。

「熊本のことを知ってもらおうと、皆でアイデアを出し合いました。」「どんな作品ができあがってくるか、とてもワクワクする。」

一つのゴールと新たなスタートが同時に存在した瞬間だったとあらためて思った。そして、絵は子ども達の手によってたたまれ、インドネシアのウブドへ旅立った。

2月になり、絵が完成したとの知らせが入った。6年生の授業で、子どもたちに報告した。「熊本春日小ーウブド第一小」の共同壁画だけでなく「佐賀芙蓉小ーウブド村スタダルマ小」の絵も完成しており、そのことも併せて報せた。しかもそれらの絵がウブド村のネカ美術館の展覧会で展示されたことも。

「うれしいな、本当にできあがったんだ。」

「すごいなあ、一ヶ月で描くなんて。」

また、ウブド第一小学校に絵が到着した時の様子のビデオも届けられた。

「あ、私たちの絵だ〜。本当に行ったんだ!」「実感するう。」

そしてウブドの子どもたちの制作風景と完成した共同壁画も見たい。子どもたちもきっとそう思ったに違いない。

(5) プロジェクトのゴール

3月7日、梱包された共同壁画が、インドネシアから春日小に送り届けられた。6年生はプレールームに集まり、実行委員が、包んであるその品を開けた。中に折りたたんである絵を広げる。思わず歓声。

「うれしいなあ、本当にできているよ。」
「ああ、川がちゃんとうまくつないで書いてある。」



「あ、裏にサインも書いてある！」
願いだった共同壁画完成の喜びを、子どもたちはしみじみ味わっていた。

そしていよいよプロジェクトも最後のヤマ場を迎えることになる。スカイプを使ったビデオ会議によるインドネシアとの交流である。それは、これまで子ども達のプロジェクトを支え続けてきた、大人達のスタッフの挑戦でもあった。ウブドの光森さん、ボンさん、ウブドの先生方、そして日本側は、春日小6年生担任首藤先生と私。JAM代表塩飽さん、ICT支援をしてくださった兵庫の教育委員会の上谷さん、そしてスタダルマ小と共同制作した芙蓉小学校の井上先生、飯盛先生、

1月から着々と準備を進めてきた。まず、スタダルマ芙蓉小のビデオ会議が実現した。次に、芙蓉小―春日小。だが、最後のウブド第一小―春日小はキャンセルと調整困難が続き実現が危ぶまれた。しかし、ようやく卒業の一週間前、その機会が訪れた。

「マイ・ネーム・イズ・ミチコ。私たちの学校は、全校203名で、・・・」

ウェブカメラに向かって、一人の女の子が学校紹介を話し始めた。インドネシアのウブド第一小学校とのビデオ会議によるインターネット交流開始の瞬間



だ。

その後約1時間、通信による交流を行った。何度か接続が切れたりはしたが、映像だけは交代で送り合った。自己紹介から始め、現地のボンさんが日本語に通訳してくださる。

「好きなものは、フットボールやサッカー」とウブドの6年生の男の子が話すと、
「お〜いっしょだあ。俺もサッカーが好き」と反応する春日の6年生の男子。

ウブドの子どもたちは、自己紹介を一生懸命話していた。音声時々途切れて聞き取りにくかったが、こちらの子どもたちも一生懸命画面に見入っていた。

そして絵に対する質問。日本側から
「上の方にある建物は何ですか？またライオンみたいな獅子舞みたいなものは？」
ウブド側からは

「絵の中にはどんな物語があるのですか？」
それぞれが相手に分かるように伝えていた。そうこうしているうちに、いつのまにか終了の時間になった。

最後は春日小側が校歌、ウブド側が国歌を歌いながら終わることにした（インドネシアには校歌がないので）。子どもたち全員が共同制作の絵の前に立ち、スクリーンを見つめた。ウブドの子たちが別れの手を振っている。

この時こちらからの映像は相手には見えていないが、日本の子たちも一生懸命スクリーンに向かって手を振っていた。「それでは、校歌を歌います。一二三ハ はるかにのぞむ〜あそのやま〜♪〜〜」

やがてインドネシア国歌らしい歌声も聞こえてきた。両国の子どもの歌声が、インターネットを通じて両国に響きながら、ビデオ会議が終了した。

海を越えて実現した壁画の共同制作は、国境を越えた心の交流というすばらしい記録まで手に入れ、ここにゴールした。

この共同壁画はその後校内に展示され、各学年の図工の鑑賞授業の題材となった。さらに卒業式や入学式では地域の方々にも多く見ていただいた。



5 成果と課題

成果

- 子どもたちが、自分たちでプロジェクトをやり遂げたことにより、課題を解決する力や主体性、創造性が大きく身に付いた。また共同で絵を描く楽しさや達成感を味わった。描画力も高まった。
- 子ども達が学級内での話し合いを多く持ち、海外との交流や他県の小学生との交流も経験したことで、対話力や鑑賞する力も高まった。
- 本校の6年生の共同制作の題材としてアートマイル共同壁画が定着してきた。
- 卒業に向けての気持ちの高まりが見られ、担任を含め校内の教師や保護者・地域の理解や協力も得られた。

課題

- 導入で出会わせるアートマイルの共同壁画や実践は、子どもと同じ小学校の作品や実践の方が子どもの興味関心が高いようである。本実践がこれからの小学校のよきモデルとして紹介できるようなビデオにまとめていきたい。
- ICT活用には、相手の情報機器環境、インターネット環境をしっかりと考えるべきだと感じた。回線が厳しいところへのメールには、画質のよすぎる画像を添付すべきではないこと、またそのような環境ではMLが時には負担になること、など気をつける必要がある。今回のような、CC中心の教数グループでのメールのやりとりを効果的に活用することが大事だろう。
- 交流相手校の教師とのコンタクトが少なかった。ビデオ会議直前のキャンセルもあった。だが、今回は幸い、現地の日本人や通訳の方がいたので上手くフォローしていただいた。現地スタッフの存在はとても有り難い。安心感がある。そのような方がいることで、トラブルがあっても上手く調整ができる。

6 その他（子どもの感想）

★完成した共同壁画を見て

・完成した絵は春日とウブドが、地面の色とか川とか空とかもみじとか全部つなげてくれて、本当に一枚の絵になっていてすごいな、思いました。春日は春日で、熊本城や秋のれいたい祭など特ちょうがすごく出て、ウブドは川の中に船があったり大きな山があったりとすごく特ちょうのある絵でした。知らない人たちとこんなにもかっこよく仕上がって本当にすごいです。

★ビデオ会議をして

・ウブドの人といろんなことをして楽しかった。ウブドの方にかいてあった建物やライオンのようなものがししまいがどういいうものかも分かった。校歌を私たちが歌ったので、春日がどういうところか、きっと光森さんが分かりやすく伝えてくれたと思います。

・インドネシアと交流授業をしました。ぼくは少ししか交流ができなかったけど、インドネシアのことをけっこう知ることができてよかった。アートマイルを描いただけでもうれしいのに。交流活動までできて本当によかった。また交流してみたいと思う。また交流したときは学校のことだけでなく日本のことも教えたい。

